たいよう

発行所
太洋基礎工業㈱
たいよう新聞委員会

最前線レポート

工事件名
北4東6周辺地区第一種市街地再開発事業（第一工区）施設建築物等新築工事

工事場所
北海道札幌市中央区北4条東6地先

発注者
北4東6再開発組合

請負者
フジタ・岩田地崎建設・田中組特定建設工事共同企業体

工種
地中連続壁工（TRD工法）
造成壁延長　一一六・〇m
造成壁面積二〇二八・六㎡
壁深度　一七・五m
壁厚　五五〇㎜
芯材　H四五〇×二〇〇　L＝一三・〇

当現場は北海道札幌市の再開発事業の一つであり、高層マンション二棟の新築工事における地下山留め壁としてTRD工法が採用されました。

現場は札幌駅の南東部にあたり、列車の往来が多い場所であるため、飛散物の管理養生は確実に行うことが必要な状況でした。また、山留め工事施工街区はサッポロファクトリーの道路向かいであり、工事施工エリアの近傍を地域の皆様や観光客が頻繁に往来する場所のため、エリア外周にも気を使いながら施工する必要がある場所でした。

施工面では、前回施工しました北1西1地区同様、施工基面の二・〇m以深からは砂礫層で掘削方法や掘削ビットの配列・ビット高さ等、通常の掘削プレートを砂礫対応に変更する必要がありました。

ベントナイト安定液による掘削においてスラリーコントロールはTRD工法には不可欠であり、安定液の比重や流動性（フロー値）の確認管理・調整を常に行いながら施工を行いました。深度は一七・五mと浅いながらも上層部から砂礫であるため、掘削ビットで破砕した石の欠片がカッターポストのチェーン回転部以外の箇所に沈降すると、カッターポストの昇降ができなくなる可能性が懸念されました。また、砂礫層を掘削することでリンクチェーンやスプロケットへの衝撃が大きいため、施工中にリンクチェーンの切断やスプロケットの破損によるチェーンの回転不可も懸念されました。不測の事態でカッターポストの昇降不可やリンクチェーンが回転不可となった場合、大型のバイブロハンマーで振動を与え引き抜きを行いますが、上層部が砂礫層であるため、振動を与えると砂礫が崩れ、余計に砂礫の沈降を促す恐れがあります。当該地盤では深度が浅いとはいえリスクの高い現場でした。

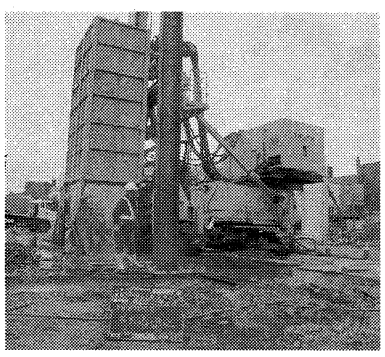
石の沈降を極力防止するため、最大プレートは上下に可動域抑制用プレートを取り付け硬質地盤に対応するとともに、挟み込んだ砂礫を地上にかき揚げる方法を取り入れて砂礫の沈降を極力防止しました。同時に掘削安定液（ベントナイト安定液）注入掘削時は砂礫の沈降を防止するため、流動性を極力低く保つようにスラリー管理を行い、施工時のトラブル対策をしながら施工を行い、問題なく施工を行うことができました。施工地盤の礫径は五〇㎜から三〇〇㎜が主体で時には五〇〇㎜程度の転石が残存する地盤で、今回の最大径は七〇〇㎜の転石をかき揚げながらの施工でした。

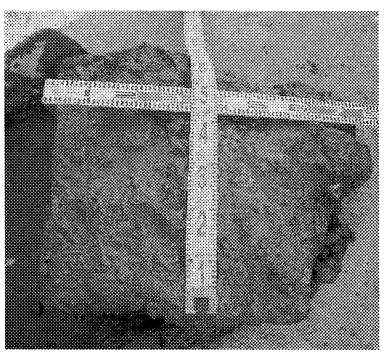
TRD施工機は神守研究開発センターから増田係長がオペレーターを行い、難しい地盤の中を試行錯誤しながらも以前の経験を活かして工程の遅延もなく施工を行いました。少人数での施工の中、各ポジションの補足を全員でカバーしあいながら施工を行いました。本当にチーム一丸とはこのことだと思っております。元請様にも状況に応じて相談させて頂き、常に迅速な対応を行って頂きました。深度が浅いため軽く考えがちですが、全員が前回の現場で行ったことを理解し、即時対応できたことにより問題なく完了することができました。

元請様でありますフジタJV様、一次会社であるヒロセ（株）様、成幸利根（株）様には適時の迅速な判断、対応に深く感謝しております。神守研究開発センター、施工班には本当に感謝しております。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

今後も難しい現場はできないではなく、どうすればできるかを常に考え技術の向上に努めて行きたいと思います。これからも皆様のご指導・ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願い致します。

東京支店　営業部
課長　中田　寛





声援

連日猛暑の中、皆様ご苦労様です。特に外で現場従事される皆様には頭が下がる思いです。くれぐれも熱中症にならないよう気を付けてください。

豊富な受注残を率いて五一期を向かえましたが、上期の成績は思ったほど伸びず、株主様をはじめご心配をおかけし誠に申し訳ありません。完工高に関しましては大型物件の着工遅れ、収益面に関しましては不採算工事の完工がそれぞれ主な要因となりました。受注高に関しましては今期に入っても堅調に推移致しており、受注残と相まって心強いものがあり、完工収益下期は挽回する所存です。

五月に長野で開催されました五九周年創業祭には総勢三〇四名の職域の仲間が集まりました。五〇期特に社業に貢献された四〇名の表彰式や部署別対抗大縄跳び大会など、一五〇億完工への出陣式として意思統一が図られた祭典であったと思います。

六月の安全大会は全国八会場で行われ、合計で五七六名の職域の仲間が集まりました。人命第一、安全はすべてに優先、職場の安全、交通安全、健康管理、経営の安全等、ご発注頂いたお得意様へ無事故で良質工事を提供する事を基本とし、安全意識の高揚の場としてこちらも同様に意思統一が図られた大会であったと思います。数は力なりと申します。多くの職域の皆様におお集まり頂きありがとうございました。また限られた時間ではありましたが、遠方の職員、協力会社の皆様と懇談する中で、多くの家族の生活を守らなければならない責任を改めて痛感致しました。

八月より下期に入りました。受注残は過去五年で最高額となり、これから本格的に多忙となります。各部署で職員、協力会社、機械の配備に悩まされることが予想されます。四月より組織変更した東・中・西日本地区の連携が重要となります。

壁工事日本一を目指す旗艦TRD工法は関東地区を軸に九月より全機稼働となります。神守研究開発センター担当職員の皆さんには出張過多となり、大変ご苦労をおかけしますが、良質工事を宜しくお願いします。矯正工事日本一を目指す最大の武器「すいへいくん」は現在熊本で稼働中です。被災により不同沈下した建物での生活は健康被害をもたらしますので、一日でも早く日常の生活に戻って頂きたいと願っております。今期は更に利便性の良い「すいへいくん四号機」の製作に取り掛かっております。多孔管注入日本一を目指す最新の技術は、前社長の伊藤顧問陣頭指揮の元、某大学様の協力を得て産学共同研究開発として新たな付加価値を得た新工法となる予定です。

建設業を取り巻く環境は早いスピードで変化しております。ニーズに応える事のみならず新技術でニーズを作り出す事も重要と考えております。その他産官学共同及びお得意様との共同研究開発も順調に進んでおり、早く商品化される事を待ち望んでいます。設備投資においては地中障害物撤去が可能なドイツ製の専用機を購入し、年末には納車となる見込みです。日本に数台しかなく都市部の再開発事業に適した専用機で営業戦略の新しい武器となります。

最後になりますが、株主様からは安心して投資できる会社、お得意様からは信頼される会社、職員の皆さんからは働いて良かったと言える会社、協力会社の皆様からは請負の関係ではなく頼れる兄貴と言われる様な頼もしい関係の会社づくりを進め、完工一五〇億達成と共に魅力ある会社作りに専念する所存です。皆様のご声援宜しくお願いします。

代表取締役社長
加藤　行正

共生共遊

・酷暑の候、家の中にいても熱中症にかかる人もいると聞きますどうかお体ご自愛下さい。

・今年設立二〇周年を迎えましたNPO法人沙漠緑化ナゴヤ、活動資金獲得で始めました自分詩づくり、五月に始め三カ月少々で一二三名の方からご注文賜り、大きな励ましを得ています。ご依頼された方からは母の日に母に、父の日に父に、病気療養中の友人知人その他、息子娘の誕生日の記念にと節目節目の贈りものとして多様な内容でしたが、引き続き心を込めて創作致します。おしゃれな祝品としてご利用頂ければ幸いです。

・因みに愛する太洋の世界にひとつしかない社名ポエムを創作してみました。

た…たいしたものだ頼もしい限りだ
い…いつも前向き研究熱心
よ…横道脇道それることなく
う…内向きならず上を向いて
き…基礎の事土の事困った時は
　太洋基礎
そ…存在感日本一の職場づくり

個人名、社名、お父さんお母さん友人知人等に、贈り物としてどうでしょう。

・京都大学山極総長、人類が長年育んできた家族、共同体のつながりが崩れつつある背景に、好きな時に好きな場所で好きなものを食べる自由を謳歌している。食事の持つ家族との絆という重要な役割が希薄になっている。人間は周囲の人と食事をすることで自然と相手と気持ちを分かち合ってきたと記していました。七月三〇日夏バテ防止チャリティー食事会、八八名の参加者を得、多くの人と気持ちが通じ合えたと食事会の意義を総長の記から学習致しました。

顧問　豊住　満

社員研修会を長野県千曲市で開催しました

今年も千曲市大池自然の森で若手社員の社員研修会が、七月二九日、三〇日で行われました。各支店・部署から取締役と若手社員、長野支店職員の総勢四三人が集まりました。

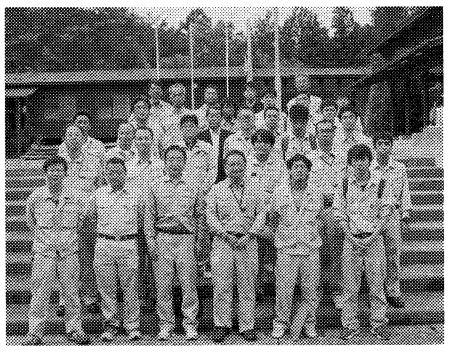
一日目は自己紹介から始まり、その後名古屋工業大学・中井照夫名誉教授から土質の基本について講話をして頂きました。学生時代に土質力学や地盤工学を勉強したとは言え、実際、現場に出て建設業の仕事を経験した後に聞くと、また違った視点から土について考えさせられました。その中で液状化の話を聞き、地震等で液状化が起こると地震力自体は構造物に伝わらないのですが、地盤が沈下して壊れずに傾いて倒れてしまうことを知り勉強になりました。

講話の後は懇親会があり、取締役や若手社員の方々、普段話せる機会のない方達と話せることができ、雨の中ではありましたが、楽しい時間を過ごすことができました。若手社員の仕事に対する情熱や思い等、口べたな私ですが、少し話せた気がします。

これで一日目が終わり、続いて二日目は、若手社員が経験した現場や配属部署の仕事内容等を伝えるプレゼンテーションを行いました。現場施工の管理方法や職場での苦労話等、今年四月に入社してからの約四カ月間、色々な経験や体験をしてきた様々なプレゼンを聞き、若手社員の方々の現状を知ることができました。特に経理部や総務部のプレゼンでは、経理の知識や総務の仕事内容等、今まで大まかにしか知らなかったことを今回のプレゼンで全部とは言えませんが、知ることができたと思います。

この二日間の研修会で各支店・部署のプレゼンや日頃話す機会がない方との会話等、私を含め若手社員にはプラスになった良い経験ができたと思っています。また、この研修会を機に若手社員が日々精進努力し、頑張って頂きたいと思っています。

長野支店　工事部　祢津　竜太



社長室だより　月間ＭＶＰ賞

受賞者
合資会社　鈴木製本所
鈴木　武　殿

この度、建築部の成約物件にて、弊社をご推薦頂き、多大なる営業協力を賜りました。

心より感謝を申上げるとともに、月間ＭＶＰ賞に推薦致します。

推薦者
取締役名古屋支店建築部長
豊住　清

熊本地震復興支援

「強靭な社会基盤の復興・整備に寄与する先進建設技術フェアｉｎ熊本」

開催日時
二〇一七年九月二〇日(水)　一〇時～一七時
九月二一日(木)　一〇時～一六時

会　場
グランメッセ熊本

主　催
名古屋国際見本市委員会

熊本地震復興支援として、グランメッセ熊本にて先進建設技術フェアｉｎ熊本を初開催します。二三二社・団体が最新の建設技術や防災・減災に寄与する製品・サービス等、一堂に展示・紹介します。当社はブース出展を行い、ＲＢＰウォール工法・ミニウォール工法・矯正工事「すいへいくん」をＰＲします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

九州支店
支店長　清田　茂秋

月間ＭＶＰ賞は当社職員だけでなく協力会社の皆様も表彰の対象となっています。自薦、他薦は問いません。多くの受賞者がでることを期待しています。

代表取締役社長
加藤　行正

交通安全だより

正しい合図ができない理由

方向指示器などで合図を出すタイミングの遅い運転者が、依然として少なくないようです。単なる合図の出し遅れというよりは、合図を正しく送ろうという意思自体が希薄な人が多いような気がするのです。

運転の際に行う様々な合図は、周囲の人や車がどういう行動をしようとしているかを互いに理解し合うための、欠かせぬコミュニケーションの手段であるはずです。その合図が遅れたり、曖昧であったり、ましてや忘れられたりするのは、そうした意思の疎通の必要性を感じていないのか、あるいは、適切な合図を送る暇もないほど運転にゆとりがないのかの、どちらかだとしか考えられません。

前者であるとしたら、運転という作業に対する責任感を欠いたあまりにも非常識な態度だと言わざるを得ません。周りの人のことなど眼中にない身勝手な振る舞いであり、他人迷惑で危険な運転行動以外の何物でもないでしょう。中には、意図的に合図を出さないことで他人を欺こうとする人もいるようですが、こうなると、単に横着では済まされぬ、許しがたい行為だと言う他はありません。

一方、後者のような状況に陥るのは、一つには運転経験の浅さや加齢などによる運転機能の衰えなどが考えられますが、むしろ、多くは、計画性のない運転が原因であるような気がするのです。例えば、道順がきちんと頭に入っていないために曲がるべき交差点などに気付くのが遅れて急に右左折をしようとしたり、せかせかと車線を変えて追い越そうとしたりするせいで、合図が間に合わず、形だけの出し方になったりしてしまっているのではないかと思うのです。

道路交通法で「右左折する地点の三〇メートル手前」「車線変更などをしようとする約三秒前」に合図を始めるように決められているのも、決して建前ではなく、少なくともそれくらいの余裕を持って合図をしなければ、的確に意図を伝え合うことができないからであるはずです。

合図は「早めに、分かりやすく」出すのが鉄則。それを実行するためには、周囲の人や車との調和を大切にしようとする心掛けと、先の読めた計画的でゆとりのある運転行動が絶対に欠かせないのです。

改正道路交通法の施行で準中型免許が新設

平成二九年三月一二日より改正道路交通法が施行され、準中型免許が新設されました。車両総重量七・五ﾄﾝ未満（最大積載量四・五ﾄﾝ未満）の自動車を運転できます。この免許は一八歳から普通免許なしで取得が可能です。

改正前に普通免許を取得した方は車両総重量五・〇ﾄﾝ未満（最大積載量三・〇ﾄﾝ未満）の自動車を運転できますが、改正後の普通免許で運転できる自動車は車両総重量三・五ﾄﾝ未満（最大積載量二・〇ﾄﾝ未満）となりますので、注意が必要です。詳しくは警察庁・都道府県警察のホームページをご覧下さい。

管理本部　総務部
部長　野下　隆雅

ひとり言

・言い放しの企業にはしたくない。経営方針等できる限り文として残すようにしてきましたし、社内のリーダーには太洋の文化としていかなる場合も後ろめたい事がないように文として残すことは当然と防衛省、文科省の様に記録がないという様な事がない様に求めてきました。

・そんな中で重責の任に就いた責任感にかられてか、もう一度一兵卒として頑張りたいという決意を込めた文を記した人がいました。言うまでもありません。太洋の役職は全て責任職、最前線では常在戦場、あえて一兵卒という様な語句を使う事自体、現場から離れている証。責任もって働くのは当たり前。そもそも太洋に一兵卒という様な社員はいない。この語句の奥に知らず知らずの内に思いあがりが育っているのでないか、上から目線になっているのでないかと思われます。上に立つほど言動には心しなくてはなりません。瑞穂の国日本、実るほど頭を垂れる稲穂かな。どんな時代になろうとどんな役職につこうともそれぞれリーダーとして戒めの格言と結びたい。

顧問　豊住　満

共済会だより

☆新しい仲間

七月一日
永山　勉
九州支店

声援の題字

太洋基礎工業の最重要課題を示すコーナーとして設けられ、代々のトップが題字を記してきました。それぞれの個性・人格が読み取れるかと思い、紹介しました。

引き続き当コーナーにご理解賜りますようお願い致します。

・創業者　豊住社長

声援

・二代目　今井社長

声援

・三代目　伊藤　社長

声援

・四代目　加藤新社長

声援

たいよう新聞編集委員長
監査役　友村　恒彦